

成城大学 Activity Report

新任教員研修会

授業改善アンケート

ピアチューター制度にかかるSD活動報告

FD・SDセミナー 1

「THE 日本大学ランキング 解説会」

FD・SDセミナー 2

「学修成果の可視化としての『PEPA』導入および活用方法の事例」

FD・SDセミナー 3

「高校での学びと大学教育の接続を考える
ー入学者のレディネスの現在ー」

各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み

2026年度活動計画

はじめに



副学長・FD・SD小委員会委員長

都築 幸恵 教授

本冊子では、本学教職員の資質および能力の向上を目的として、毎年度実施しているFD・SD活動の取り組みをご紹介します。

2025年度は、「THE日本大学ランキング解説会」をはじめ、学修成果の可視化を目的とした「PEPA」の導入・活用事例、高校教育と大学教育の接続など、大学を取り巻く環境の変化や教育の質向上に関わる重要なテーマについて、各分野の専門家を講師にお迎えし、全3回のFD・SDセミナーを開催いたしました。講演後には活発な質疑や意見交換が行われ、参加者にとって新たな知見や課題認識を得る貴重な機会となりました。

本冊子が、皆さまの今後の教育・研究活動や学内業務の一助となれば幸いです。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

2026年9月

新任教員研修会

新任教員の先生方に一日でも早く本学をご理解いただき、円滑な教育活動を進めていただくための一助として、毎年、新任教員研修会を実施しています。

2025年度は、新任の先生方全員に事前に説明動画と資料を配信し、非常勤講師の先生方へは、4月1日（火）～4月30日（水）を期間とし、オンデマンド型の実施となりました。

4月4日（金）に専任教員6名（経済学部2名、文芸学部1名、法学部1名、社会イノベーション学部2名）を対象に実施された対面での研修は三部構成とし、第一部では杉本義行学長から大学の取り組みについて説明がなされ、第二部では教育研究所職員より学園の歴史について説明を行いながら歴史記念館を見学いただき、第三部では本学キャリアセンター勝又あずさ特別任用教授によるワークショップが行われました。

各部署担当者からの説明動画（オンデマンド）

内 容	対象者	担 当
授業・成績・試験に関すること、学年暦、Live Campus U等について	専任教員・非常勤講師	教務部
各種アンケート（授業改善・大学IR学生アンケート）、ベストティーチャー表彰制度、教育改革支援、FD・SD活動支援、IR活動支援、PT（ピアチューター）、なんでも相談窓口等について		教育イノベーションセンター
特別な支援を必要とする学生について		バリアフリー支援室
教育研究用ネットワーク・教材作成設備・e-learningツールとその利用方法について		メディアネットワークセンター
専任教員対象の補足説明	専任教員	総務課
教員業績システムについて		研究機構事務室
研究支援（科学研究所助成事業、特別研究助成費等）について		

対面による研修会（専任教員）

日 時 2025年4月4日（金）
14時～15時45分
場 所 成城大学 歴史記念館

<プログラム>

- 第一部** 学長からの説明（15分）
～大学の取り組み等について～
- 第二部** 成城学園の歴史について・
歴史記念館の見学（30分）
- 第三部** ワークショップ（60分）

研修当日の様子



学長による本学の取り組み等に関する説明



学園の歴史・沿革の説明と歴史記念館見学



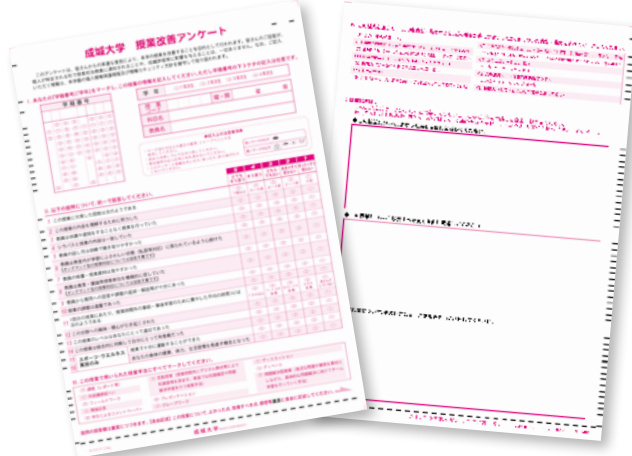
ワークショップでは教職員間の交流をはかりながらアクティブラーニングの手法等を体験した

授業改善アンケート



2025年度は、大学、大学院の全科目を対象とした全学的な授業改善アンケートを前期、後期の2回実施いたしました。2020年度以降すべての対象授業についてWEBアンケートシステムを利用して実施してきましたが、2022年度より対面授業については以前のマークシート方式に戻し、原則、授業内で回答を依頼する形で実施、オンデマンドやリアルタイム配信などのメディア授業については、LiveCampus Uによって受講生に個人通知を行い、同じ設問形式のもと、Webアンケートシステムを通じて回答を求める形で実施いたしました。

大学の実施状況は、実施任意科目も含め、前期1,083科目中958科目(実施率88.5%)・後期1,597科目中1,323科目(82.8%)でした。本学はマークシート実施により高い実施率を達成できていることが特徴です。



アンケートの集計結果は、LiveCampus Uで学内公開し、別途、科目別集計表を各科目担当者へ、大学全体集計表、科目開設部門別集計表、授業形態別集計表を学長、学部長、研究科長、共通教育研究センター長、データサイエンス教育研究センター長、国際センター長、キャリアセンター長へ報告いたしました。

この集計結果を授業改善に役立てたいと考えておりますので、今後とも本アンケートにつきまして、ご協力いただきたくお願いいたします。



アンケート集計結果はWeb上で公開しております。



ピアチューター制度に係るSD活動報告

<授業カタログの取材を行いました>

本学における授業カタログは、先生方の優れた取り組みや授業方法をご紹介します、大学全体の授業改善や効果的な履修指導に寄与することを目的に毎年刊行しています。

2025 年度版では、ご登場いただいた2名のうち1名の先生については、ピアチューター制度の「授業サポート」をご活用いただいている授業を対象に、ピアサポーター学生と職員による取材を行いました。

取材交渉、教員・受講生へのインタビュー、記事の校正等、学生と職員が力を合わせ、先生からもご協力をいただき、学生ならではの視点を活かしたカタログを作ることができました。

授業カタログはポスター形式で学内各所に掲示しました。



大学 HP へも
掲載しております



<Supporters'Forum 2025>

2025 年 11 月 29 日 (土)、本学サポーター団体の相互理解と学内の学生サポーター団体との連携を図る目的で、サポーターズフォーラムを開催しました。

9 回目となる今年度は、17 大学及び高校3校、総勢約 200 名の学生・生徒が参加する大きなイベントとなり、開



ポスターセッションを用いた参加団体活動紹介

催に向けては、甲南大学・京都橘大学と本学の3大学の学生および教職員にて実

行委員会を構成して準備を進め、当日は、本学と京都橘大学を中継でつなぎ、各会場において対面形式でワーク等を実施しました。

職員は学生の主体的な行動を促す支援を行い、フォーラム全体を通して SD 活動の大きな取り組みとすることができました。

【サポーターズフォーラムのプログラム】

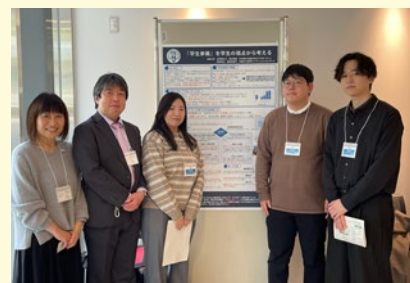
13:00~13:10	開会式・趣旨説明会
13:10~14:10	全体ワーク「個を開放し、組織をクリエイティブにするには」
14:25~14:55	参加団体の活動紹介(ポスターセッション)
15:05~16:35	分科会
16:50~17:00	閉会式
終了後	懇親会

<大学教育改革フォーラムin東海2026>

2026 年 3 月 7 日 (土)、名古屋大学東山キャンパスにおいて、「大学教育改革フォーラム in 東海 2026」が開催され、ピアサポーター4年生3名と教育イノベーションセンター職員が、『「学生参画」を学生の視点から考える』というタイトルでポスター発表を行いました。

近年、大学は教育の質の保証及び向上に取り組むため、「学生の声」を積極的に聞くことが重視され、学生が主体的に大学運営に関わる機会として「学生参画」に注目が集まっています。そこで、今発表において、本学のピアサポーターが“教職学協働”を理念に各種活動に取り組んでおり、「学生参画」の一例となっていることをテーマとし、学生・職員間での打ち合わせを重ねながらポスターを作成しました。

当日は、「学生参画」に加え、ピアサポーターの運営や募集、学生と教職員との連携等についても多くの質問が寄せられ、他学生の学習支援に取り組み続けた4年生にとっては活動を振り返るよい機会となり、職員にとっても大変貴重な SD 活動となりました。



職員・学生とで作り上げた発表ポスターの前で

ポスターはこちらの
二次元コードから
ご覧になれます



FD・SDセミナー1**主催/共催：内部質保証委員会／
教育イノベーション委員会FD・SD小委員会
「THE 日本大学ランキング
解説会」****講 師** 株式会社進研アド 担当者**日 時** 2025年5月22日(木) 17時00分～19時00分**場 所** 2号館 大会議室

「THE日本大学ランキング」は、世界大学ランキングで評価する研究・名声ではなく、優れた教育に焦点をあて、より広く世界に、日本の大学の本当の質・強みを示すものです。内訳として、「教育リソース」34%、「教育充実度」30%、「教育成果」16%、「国際性」20%から構成されております。

本セミナーでは、株式会社進研アドから担当者をお招きし、本学の2025年度ランキング結果の概要と、本学と募集広報で競合関係となる大学10校を比較のうえ、強み、弱みに関する解説を頂きました。このうち、本学の「教育充実度」は、過去3年で最高値となったことから、競合大学との差が縮まり、在学生が、本学を評価していることが確認されました。また、高校教員評判調査については、得票数は過去最多となったものの、競合大学と比較すると、記入分母が少ないことから、今後、更なる評価獲得が求められる結果となりました。

※2025年9月30日 THE日本大学ランキング事務局より連絡があり、THE日本大学ランキングは、2025年4月の発表をもって終了となりました。

今後の検討策として、株式会社進研アドから、学生が評価する「成城大学」の教育力を学生、高校教員、社会・企業に対して、棚卸し、外部にも魅力として届けるコミュニケーションを行うことの必要性について提案がありました。

当日は、杉本義行学長をはじめ、部局長の他、入学センターやキャリアセンターから多くの職員が出席いたしました。

今後、学生が高い意欲をもって大学の授業・活動に取り組み、成長し続けることができるよう環境を整備し、卒業生が社会で活躍し、社会から評価され、本学のブランド力が高まる好循環となるよう「成城大学」の学修成果と教育力の可視化を発信することが求められていることを再認識する大変有意義な時間となりました。

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	11 名
	職員	15 名
計		26 名



FD・SDセミナー2

主催/共催：内部質保証委員会／
教育イノベーション委員会FD・SD小委員会

「学修成果の可視化としての 「PEPA」導入および 活用方法の事例」

講 師 森 朋子 先生(桐蔭横浜大学 学長)

日 時 2025年7月1日(火) 18時30分～20時00分

場 所 3号館 311教室

2025年度から開始した第4期認証評価では、各大学がディプロマ・ポリシーに基づき、「学生がどの程度の能力を身につけているか」を明確にする学修成果の可視化を行うことが重要視されています。併せて、学びや成長の度合いを大学が明確に把握し、その結果を教育の質の向上に活用することも求められています。

こうした動きを受けて、学修成果の可視化の手法として注目される「重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)」について、桐蔭横浜大学学長の森朋子先生をお招きし、具体的な事例についてご説明いただきました。講演においては、文部科学省に設置された中央教育審議会による「知の総和答申」に基づいた教育政策の基盤背景に関するご説明から始まり、学修成果の可視化の難しさや桐蔭横浜大学における事例のご紹介をいただきました。また、

学修成果の可視化にあたって「PEPA」を導入する際の留意点や他大学の事例を交え、「PEPA」のしくみについて、大変詳しくご説明いただきました。

当日は内部質保証委員会委員に加え、テーマに興味を持った教職員も参加可能な形式として開催し、合計44名の教職員の参加がありました。「PEPA」の導入や学修成果の可視化のツールとなる「ルーブリック」等について、熱心な質疑応答が行われ、参加者の全員が真剣に聞き入りました。

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	30 名
	職員	14 名
計		44 名



FD・SDセミナー3

主催：教育イノベーション委員会FD・SD小委員会 「高校での学びと 大学教育の接続を考える ー入学者のレディネスの現在ー」

話題提供 学校法人十文字学園十文字中学・高等学校

鈴木 紀彦 先生(校長付教育連携担当)飯島 奈
海 先生(自己発信コース主任/進路部探究係長)

日 時 2026年2月20日(金) 17時00分～18時30分

場 所 9号館2階データサイエンススクエア

2022年度から実施されている高等学校の
新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い
学び」の推進や探究活動の充実が重視され、生
徒の学びの在り方は大きく変化しています。こ
れらを背景に、このセミナーでは、早くから探究
学習に取り組んでこられた学校法人十文字学
園十文字中学・高等学校の先生方をお招きし、
中等教育の現場における教育実践と生徒の変
化についてお話しいただきました。

当日は、2名の先生に話題提供をいただき、
その後、本学の都築幸恵教育イノベーションセ
ンター長と新垣紀子入学センター長も含めた
パネルディスカッションを行いました。本学教員
だけでなく、参加していた学園中学校高等学校
の教員も交えて、活発な質疑応答が行われまし
た。

これから入学してくる学生のレディネスを的
確に把握することの重要性とともに、大学での
学びへ円滑につなげるための支援や、教育内
容の改善につなげるヒント等をいただくことが
できました。高大接続にとどまらず高大連携の
視点から、本学の教育理念を踏まえた「学修者
本位の教育」を考える、大変有意義な時間とな
りました。

参加者内訳

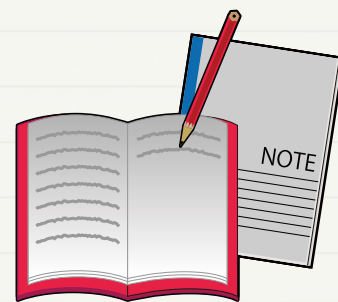
所 属		人 数
学内	教員	11 名
	職員	11 名
計		22 名



各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み

経済学部

林 幸司 教授



経済学部では、「経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握し、変貌する現実社会に対する洞察力と判断力を養うとともに、事業経営など種々の環境において必要な識見と実践能力を具えた人材を育成する」ことを、人材育成の目標としてかかげています。これら学部教育の質向上とさらなるアップデートをすすめるため、学部内でFD・SDに関わる様々な取組をおこなっています。以下では、2025年から2026年にかけて、経済学部において展開したFD・SD研修会の概要を紹介していきます。

まず、学部教育に新たな要素を採り入れる試みの一つとして、2025年3月12日、井澤友郭氏(NGO こども国連環境会議推進協会事務局長/株式会社アエルデザイン代表取締役)に、「PBLにおける問いづくりの重要性と実践を学ぶ」と題するご講演をお願いしました。講演では、PBL(Project Based Learning/課題解決型学習)の実践が、講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、「他

果の一部は、本学部がすすめる特別学修達成プログラム「経済学部Distinguished Achievement Program(DAP)」の設計にも活かされています。学部教育の成果をいかにはかり、可視化するかということも大きな問題となっています。これについては、2025年4月8日、本学教育イノベーションセンターの肥田奈緒子氏、人見有紀氏をお招きし、「学習成果の可視化にかかる政策動向について(背景と必要性)」と題する研修会をおこないました。ここではとくに今後本学が認証評価などで求められる課題として、「質保証システム全体についての見直し」や、「教学マネジメント指針の策定」に加えて、「学修成果の可視化と情報公表の在り方の検討」が強く求められることについて、その背景も含めた分析と解説がおこなわれました。さらに、このようないわば「外在的」な必要性を、いかにして学部教育の質向上という「内在的」目標へとつなげてゆくか、という問題についても、議論が深まりました。

学修成果の可視化という問題については、2025年7月1日に開催された教育イノベーションセンター主催のFD・SDセミナー(森朋子桐蔭横浜大学長「学修成果の可視化としての『PEPA』導入および活用方法の事例」)について、その成果を共有した上で、学部内での議論もおこなわれています。セミナーでは、新たな評価制度の方向性が、履修主義(input)ではなく学生の伸び(outcome)により注目すること、また教育の質評価を段階的か



者理解」と「合意形成」そして「主体形成」が育成される教育プログラムであることが強調され、これらを念頭に置いた教育の重要性について、議論が深まりました。その成

2026年度経済学部 第1回FD・SD研修会

【テーマ】
バリアフリー支援に係る留意点について

【講師】
バリアフリー支援室コーディネーター
関 真利子氏、小澤 関子氏、大内 楓氏

【日時】
2026年6月2日（火） 14:45～15:15

【場所】
3号館3階大会議室

経済学部研究事務室

経済学部

つ定性的におこなうものであること、そしてそれらを「国民に分かりやすい評価結果」により公表することなどへと変化することが示されました。これを受けて学部では、教員の業務量増加や評価能力の問題、「教育の質」の定義の曖昧さ、入学時の学生の能力差による評価の公平性への懸念と

いった課題が挙げられる一方で、教育現場での生成AI利用など新しい教育方法の積極的な活用や、学生による不正利用への対応など、不断の取り組みと情報共有をはかる必要性が提起され、活発な意見交換がおこなわれました。

他方、様々な問題をかかえる学生達にどう向き合うか、という点も、本学部の教育における重要な課題です。この点について、2026年6月2日、本学バリアフリー支援室の関真利子氏、小澤関子氏、大内楓氏をお招きし、「バリアフリー支援に係る留意点について」と題する研修会を実施しました。様々な障害をもつ学生が教育を受ける権利を享受・行使するために大学が必要かつ適当な調整をおこなうこと、それに伴う合理的配慮の方法を身につけること、そして現在支援を必要とする学生の現状を的確に把握することについて、教員間での共通認識を得ることができました。これらの認識は、今後学部における教育の展開に際して重要な前提となっていくことでしょう。



各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み

データサイエンス教育研究センター

センター長
増川 純一 教授

本学では 2015 年度より全学共通教育科目としてデータサイエンス科目群を設置しその教育課題に取り組んできた。学校法人成城学園は、2017 年に学園創立 100 周年を迎えたことを機に、次の 100 年の教育目標として「国際教育」「理数系教育」「情操・教養教育」の 3 つを掲げて教育改革を進めている。「情操・教養教育」を担うセンターとして共通教育研究センターが 2007 年に開設されており、「国際教育」を担うセンターとして 2015 年に国際交流室を国際センターに改組した。理数系教育の中核としてのデータサイエンス教育の企画・運営は、共通教育研究センターに設置された専門部会が行っていたが、その任務を担う専門部署として 2019 年 4 月にデータサイエンス教育研究センター（以下 CDS3: Education and Research Center for Data-driven Social Science & Humanities of Seijo University）を開設した。

CDS3 は、中核ミッションとして、教育「データに関心を持ち、データに基づき考え、行動する学生の育成」と研究「データサイエンスの人文・社会科学分野への応用」の 2 つを掲げて、人文・社会科学の専門知識とデータサイエンスの基礎力を兼ね備えた独創的な教養人の育成を目標としている。

このような、人文・社会科学系大学におけるデータサイエンス教育に対する考え方は、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが推奨する数理・データサイエンス・AI モデルカリキュラムとも合致するものであり、CDS3 が提供する「データサ

イエンス基礎力育成・認定プログラム」の「リテラシーレベル・ディプロマ」と「応用基礎ディプロマ」は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (MDASH)」の「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」にそれぞれ認定されている(図 1,2)。

図 1: MDASH (リテラシーレベル)



図 2: MDASH (応用基礎レベル)



文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の認定を受けている大学は、毎年度プログラムの実施状況等の自己点検・評価結果を公表することが義務付けられている。

自己点検・評価委員会はCDS3センター長、センター員（専任教員、特任教員）、大学事務局長、総務課長で構成されている。このメンバーに実質的にセンター事務職員も加わる。年度ごとにセンター構成員全体で行う自己点検作業は、本稿のテーマであるCDS3におけるFD・SD活動の中核をなしている。内容は、【学内からの視点】として（1）プログラムの履修・修得状況及び学修成果に関する事項、（2）受講学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項、（3）全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況、【学外からの視点】として（1）プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項、（2）産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項等多岐にわたり点検を行う。

【学外からの視点】（2）に関しては、外部アドバイザー委員会制度を、CDS3の内部規則により設置を義務付けており、企業や他大学から多彩な外部アドバイザーの方の協力を得ている。毎年開催している委員会を中心に、委員方々の意見や提案をセンター運営の改善に活用している。2025年度開催した委員会においては、こちらから「リテラシーレベルや応用基礎レベルの受講者やディプロマ認定者数が順調に伸びているのに比して、さらにその先の上級レベル、実践レベルに挑戦する学生の数伸び悩んでいる」ことに対する意見を求めたところ、

- ・データサイエンス分野で活躍している卒業生とのコミュニティ形成をしていくこと
- ・外部のビジネスコンテスト等に積極的に挑戦すること
- ・企業との関わりを持つために、企業に積極的に働きかけること。

など、対応策に関する具体的で貴重な意見を数々いただいた。今後は、頂いた意見を内部で咀嚼しながらCDS3の提供するデータサイエンス科目の内容、運用等の改革に活用していきたい。

2025年度行ったFD・SD活動として特記すべきことは、センター員全員でMDASH（リテラシーレベル）再認定に取り組んだことである。MDASHモデルカリキュラムは時々見直されており、5年度毎に再認定を受けなければならない。モデルカリキュラムで挙げられている各項目について、本学のカリキュラムがそれを反映したものであるかどうかの精査をおこない、必要な修正を行った。

また、毎年度様々なテーマで複数回行われる外部講師による【データサイエンス】ワークショップや、外部講師による教育・研究シンポジウムはセンター教員も積極的に関わっており、担当科目のカリキュラムの改善に役立っている（図3）。



図3:2025年度【データサイエンス】ワークショップ「生成AI活用講座」のワンシーン

2026年度活動計画

2026年 4月	新任教員研修会
6月	FD・SDセミナー「成城大学における学修成果の評価 ールーブリックの作成と活用を考えるー」
	2025年度授業改善アンケート集計結果報告公開
7月	ベストティーチャー賞表彰式
	前期授業改善アンケートの実施
9月	前期授業改善アンケート集計結果報告公開
	成城大学FD・SD Activity Report 2025年度版発行
12月	後期授業改善アンケートの実施
2027年 3月	2027年度事業計画、予算概算要求書確定
	授業カタログ発行

※1 時期が未定の事業

- ・FD・SDにかかる研修会参加、他大学視察
- ・FD・SD講演会・ワークショップ

※2 事情により、上記の予定が変更になる場合があります。

成城大学教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員 (2026.5.1現在)

委員長	都 築 幸 恵 (教育イノベーション委員会委員長)	
委 員	都 築 幸 恵 (教育イノベーションセンター長)	川 田 牧 人 (文学研究科)
	山 重 芳 子 (教務部長)	佐 藤 量 介 (法学研究科)
	林 幸 司 (経済学部・経済学研究科)	加 藤 敦 宣 (社会イノベーション研究科)
	吉 川 齊 (文芸学部)	鋤 本 豊 博 (全学共通教育運営協議会議長)
	川 淳 一 (法学部)	新 井 和 之 (事務局長)
	竹之内玲子 (社会イノベーション学部)	

発行日 2026年9月

2025年度成城大学教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員

委員長 都築幸恵 (教育イノベーション委員会委員長)

委 員 都築幸恵 (教育イノベーションセンター長) 山重芳子 (教務部長) 境 新一 (経済学部・経済学研究科) 吉川 斎 (文芸学部) 池田雅則 (法学部)

竹之内玲子 (社会イノベーション学部) 川田牧人 (文学研究科) 足立友子 (法学研究科) 加藤敦宣 (社会イノベーション研究科) 鋤本豊博 (全学共通教育運営協議会議長)

新井和之 (事務局長)